

お客さまと鉄道で働く者の命を守るために、

悪質極まりない鉄道妨害を断じて許さず、安全運行を確保しよう！

今年2月頃から鉄道妨害が相次いで発生しています。4月には福島県郡山駅で停車中の無人列車が動きだし、500メートル先の留置車両に衝突した事象も発生しました。マスコミによると、件数は430件に達しており、駅や車両への落書きをはじめ、シートやドアの破損、備品の盗難など鉄道妨害が多発していると報道されています。

さらに現在、JR東労組の18春闘をめぐる様々な状況に対して内外から注目され、同時期に国会やマスコミ等によって革マルキャンペーンが展開されています。そのような中、「内部犯行説」を想起させるような報道がなされています。

私たちは、JR東労組結成以来30年間にわたって安全第一を掲げ、働きがいのある職場を目指してきました。JR東労組は、鉄道輸送を担う労働者として、悪質極まりない鉄道妨害を断じて許すことはできません。

そして、1949年に下山・三鷹・松川事件が引き起こされ、内部犯行がでっち上げられ、たたかう労働組合が弾圧された歴史的教訓を私たちは忘れてはなりません。

私たちの最大の使命は言うまでもなく乗客と鉄道で働く者の命を守ることです。JR東労組は国鉄改革の原点に立って、これからも安全な鉄道輸送を確立していかなければなりません。乗客と鉄道で働く者の安全を脅かすあらゆる鉄道妨害や弾圧を跳ね返し、安全で働きがいのある職場を創りだしていきましょう。そして、些細な事象にも警戒心を高め、報告・連絡・相談を徹底し、組合員一人ひとりが安全を守り抜いていきましょう。

全組合員のみなさんへ訴えます！

お客さまと鉄道で働く者の命を守るために、危険と感じたら躊躇せず列車を止めよう！

鉄道の安全を妨害する卑劣な行為を許さず、全組合員で警戒心を高めよう！

不審な動きがあったら、ただちに報告しよう！

全組合員の総力で、安全・安心な鉄道輸送を実現しよう！

2018年6月6日

東日本旅客鉄道労働組合